

宮城県漁業士会報

海人

第二十五号
令和八年三月発行

漁業士会とは

漁業士制度は、次代を担う漁業後継者の育成・確保を目的として昭和六十一年度に国が制度化したものです。

漁業士になるためには、地域漁業を担う中核的漁業者として、宮城県知事から認定される必要があります。活動経験や年齢に応じて、「青年漁業士」と「指導漁業士」に区分されます。

宮城県漁業士会は平成二年に発足し、令和七年で三十五周年を迎えました。当会は、北・中・南部の三支部に分かれ、研修会や先進地視察を通して会員自身の知識や技術を高め、漁業後継者の育成や魚食普及活動等に取り組んでいます。

今後とも宮城県の水産業の振興に向けて取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

◆会員数（令和八年三月現在）

青年漁業士	四十五名
指導漁業士	七十四名
計	百一九名

会長のメッセージ

会長 江刺 寿宏
(JFみやぎ石巻地区支所)



会員の皆様には、日頃から本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに厚くお礼申し上げます。

七年以上継続していた黒潮大蛇行がついに終息し、各浜でも大きな話題となりました。この間、様々な養殖物で生育不良が見られ、従来水揚げされていた魚種が姿を消し、新しい魚種が頻繁に見られるようになっていきました。黒潮大蛇行が終息したこと、宮城県沿岸海域がどのよう

に変わっていくのか、まだまだ不安を感じるのが正直なところです。それに加え、令和七年度は物価・燃油価格の高騰や、カムチャツカ地

方で発生した地震による津波被害など、個人の努力だけでは抗い難い困難続きで、歯がゆい思いをしている漁業者も多いと思います。

そんな中でも漁業士会では、後ほど本誌でも紹介する様々な活動を通じて、多くの学びを得ながら、全国にたくさんの方の御縁が生まれました。

我々漁業士が先頭に立ち、見聞きた情報や手を取り合いながら、この数多くの悩み渦巻く水産業界を力強く導いていきたいと思っています。

会員の皆様におかれましては、「漁業士会としてやりたい事」など、どんなご意見をいただき、チャレンジ精神を持って活動の幅を広げていければと思います。

新漁業士の紹介



令和七年度の新規漁業士認定式は、六月五日に東京エレクトロンホール宮城（仙台市）を会場とし、農業士の認定式と合同で開催されました。今回は、青年漁業士三名、指導漁業士四名が認定されました。新漁業士の皆様には、小林副知事より認定証と漁業士徽章が交付されました。

また、認定式終了後は、新漁業士と県の水産職員の皆さんで意見交換会を実施しました。

新漁業士の皆様に抱負を語っていただきましたので、ご紹介いたします。



認定式後の意見交換会



認定式での記念撮影

指導漁業士四名



青年漁業士三名

菅原 洋司 さん
(JFみやぎ志津川支所)

【漁業種類】かき・わかめ養殖
【趣味】バレースケートボード
【抱負】指導漁業士として知見を広げ何事にも挑戦し地元漁業の発展に貢献できるよう活動していきたいです。



相澤 太 さん
(JFみやぎ矢本支所)

【漁業種類】のり養殖
【趣味】釣り
【抱負】作る人と食べる人の未来をつなぎ、子供たちの未来、次の世代に、食生活や豊かな自然環境を繋いでいく、漁師にしかできない活動をしていきたいです。



阿部 克之 さん
(JFみやぎ表浜支所)

【漁業種類】わかめ・かき養殖
【趣味】スノーボード
【抱負】漁業士会の活動を通して、知識を習得しながら、指導漁業士として浜の若手を育成しつつ、地元水産業の発展に貢献していきたいです。



佐伯 智宏 さん
(JFみやぎ仙南(亘理)支所)

【漁業種類】雑漁業(うなぎ稚魚)
【趣味】囲碁・スノーボード
【抱負】これまでの支所青年部活動、漁青連活動、そして漁業士会活動を通じて、各浜の漁業者各位にお世話になってきました。少しでも恩返しができるよう尽力していきます。



本田 智章 さん
(JFみやぎ石巻湾支所)

【漁業種類】のり養殖
【趣味】美味しい海苔作り・ウナギ釣り・美味しい蒲焼作り・鳴子温泉郷巡り
【抱負】漁業士会を通じて、幅広い分野・視点で積極的に活動し、地域漁業の発展に貢献していきたいです。



鈴木 一樹 さん
(JFみやぎ石巻市東部支所)

【漁業種類】わかめ・かき養殖
【趣味】スポーツ
【抱負】漁業士として、様々な技術・知識を習得し、後輩の育成も行いながら、浜を盛り上げていきたいです。



後藤 晃一 さん
(JFみやぎ鳴瀬支所)

【漁業種類】かき養殖
【趣味】スポーツ
【抱負】地域の漁業や豊かな自然環境を次世代に繋いでいけるよう、漁業士として活動していきたいです。



活動報告

宮城県農業士会とのコラボ 「海と大地の語り場」

指導漁業士 水間 健二
(JFみやぎ塩釜地区支所)

十一月二十一日に、宮城県農業士会様とイベントを開催しました。

これまで、南部支部が主催となつて開催していたコラボイベントですが、今回から漁業士会全体で参加することとなり、漁業士十名、農業士十二名が参加しました。

今年は、仙台駅近くの居酒屋「Mt.Ash」様に御協力いただき、会場提供のほか、漁業士と農業士の食材を贅沢に使用したオリジナルメニューを手掛けていただきました。八品のメニューはどれも絶品。旬の食材を使用した料理は、季節を感じる味わいの中に、我々漁業士や農業士の皆さん、そして料理長さんのこだわりが詰まっていました。

漁業士会からは、小野具大副会長（タコ、イナダ等）、相澤充漁業士（バラ



漁業士×農業士コラボメニュー

海苔、味付け海苔）渥美政雄漁業士（ホタテ）が食材を提供しました。このほか、スペシャルメニューとして「牡蠣三種食べ比べ」ということで、各支部から江刺寿宏会長（石巻市）、畠山政也漁業士（気仙沼市）、赤間拓哉漁業士（松島町）が生産する牡蠣を提供し、各浜の恵みを受けて育つ牡蠣の美味しさを、存分に堪能することができました。



牡蠣三種食べ比べ

我々漁業士が感じている「同じ水産物でも、浜や生産者によって味や個性がある」ということを、目で、舌で、体感いただけたのではないかと思います。

農業士の皆さんとの意見交換では、近年の物価高騰や環境変化などの課題がありながらも、農業士として前向きに取り組まれている様子がとても印象的でした。我々も、研究会や先進地視察などの活動を通じて得た知識・経験を還元できるように、より一層、励んでいきたいと感じました。

「海と大地の語り場」で培ったご縁を大切に、農業士の皆さんと互いに切磋琢磨して行きたいと思っています。

東日本女性漁業士交流会の開催について

指導漁業士 須田 えみ
(JFみやぎ石巻地区支所)

二月四日から五日にわたり開催した交流会では、とても楽しい時間を過ごしました。

一日目は、フィッシャーマン・ジャパンから安達様をお招きし漁業現場での女性活躍について、他県の事例を交えてご説明いただきました。



交流会の様子

その後、参加者同士でグループに分かれグループディスカッションを実施。女性漁業者として、現場でも家庭でも様々な役回りを担う私たちですが、参加漁業士からお話いただいた悩みごと・困りごとには、どれも強く共感しました。

浜は違えど、眼の前にある課題と向き合い、日々の生産活動に取り組まれている仲間の姿が、大変心強く感じました。



グループに分かれ意見交換

お茶のお供には、宮城県漁協女性部が開発した「アイゴ揚げかま」の試作品が配布され、女性部の三浦会長からは、情報提供として未利用魚の有効活用についてご説明いただきました。

今日のお話を聞いて、県内外の女性漁業者が積極的に活動されており、大変感心いたしました。

二日目は、現地視察として「かわまちてらす開上」に行き、代表の佐藤様からお話を伺いました。参加者の中にも、沿岸部で直売所を営む漁業士がおり、継続的な集客や漁村に賑わいを生み出す工夫など、大変勉強になりました。最後の交流イベントとして、いちご狩りに参加し、旬の甘いいちごを堪能しました。終始、和気あいあいとした雰囲気、この交流会を契機に、県境を超えた繋がりがより一層強固なものとなりました。



三浦会長から情報提供



天候に恵まれたかわまちてらす開上



フルーツパーク仙台あらはまにて

支部だより

支部だよりでは、北・中・南部の各支部の活動や浜で注目される漁業士の活動をご紹介します。

北部支部

岩手県漁業士会 大船渡支部の視察受け入れ

令和七年十一月二十八日、当支部では、岩手県漁業士会大船渡支部による視察の受け入れを行いました。

本視察は、近年の海水温上昇等の海洋環境の変化により、ホタテガイのへい死が続いていることを背景に、本県における養殖技術や生産体制について学びたいとの要望を受け、実施したものです。



岩手県漁業士会大船渡支部との交流

当日は、南三陸町歌津地区の最知指導漁業士のほか二名のホタテガイ生産者の協力のもと、歌津地区の養殖施設の構造や使い方、日常管理の方法、作業工程などについて具体的に説明していただきました。



養殖方法について説明する最知漁業士



現場では、養殖方法や生産サイクルの違いを中心に活発な意見が交わされました。特に、歌津地区で行われている養殖方法や「秋吊り」「春吊り」といった作業時期の違いについては、岩手県側の参加者から高い関心が寄せられました。また、養殖管理の考え方についても、手間のかけ方や管理の頻度などに地域差が見られ、それぞれの環境条件に応じた工夫がなされていることが共有されました。



作業小屋で詳しく説明

さらに、近年の海洋環境の変化に伴う課題についても意見が交わされ、へい死対策や安定生産に向けた取組の必要性について、双方の認識を深めることができました。こうした情報交換は、単に技術を学ぶだけでなく、地域の取組を見直す契機にもなり、非常に有意義な時間となりました。

今回の視察を通じて、地域ごとの養殖技術や課題への対応について理解を深めるとともに、今後の養殖業の安定化に向けた貴重な情報交換の場となりました。また、漁業士同士のつながりが強化され、継続的な交流や連携が期待されます。



最知漁業士が使用する資材



中部支部

宮城県漁業士会

中部支部研修会

令和七年六月二十六日、石巻市内において研修会を開催しました。当日は、会員約二十名が参加し、講師に国立研究開発法人水産研究・教育機構の奥村裕氏をお迎えし、「貝毒低減等安全性向上に係る技術開発について」と題してご講演いただきました。

近年は貝毒の影響による養殖物の出荷自主規制期間が長期化していることもあり、出席した漁業士の関心は非常に高く、質疑応答も活発に行われました。貝毒に関する最新の知見を深める、有意義な研修会となりました。



奥村氏による講演

宮城県漁業士会

中部支部先進地視察

令和七年九月一七日から一八日までの一泊二日の日程で先進地視察を実施し、中部支部の会員五名で福島県相馬市を訪問しました。

一日目は、相馬市の松川浦内で行われているアオノリ（ヒトエグサ）養殖について、採苗場や加工施設を見学しました。その後、現

地の漁師と意見交換会を行い、アオノリ養殖や宮城県と福島県の漁業の現状について議論を交わしました。

二日目は、福島県水産資源研究所を視察し、ホシガレイやアワビ等の種苗生産現場を見学したほか、同研究所の職員から松川浦内のアオノリ、アサリ漁業について詳細な説明を受けました。

参加した漁業士は、視察で得た知識を自らの浜に還元しようと終始積極的に質問しており、宮城県におけるアオノリ養殖の可能性を模索することができました。



現地視察の様子

石巻農業士会・宮城県漁業士会

中部支部交流会

地域の一次産業間での交流促進を図ることを目的として、石巻農業士会・宮城県漁業士会中部支部交流会を令和八年二月二十五日に開催しました。

第四回目となる今回は「浜と耕土のうたげ」と題して一般の方も参加、総勢六十二名が集う盛大な交流会となりました。本交流会で

は、石巻市内の飲食店等の協力により、漁業士と農業士が生産した食材を使用した豪華コラボメニューを囲んで、石巻圏域の食材の魅力を実感しつつ交流を深めました。



水産×農業コラボメニュー

本交流会を通じ、農業士との繋がりをはじめ、料理人、そして消費者へと至る「生産から消費まで」の多様なネットワークが生まれ、参加者から「是非来年も開催してほしい！」という声が寄せられるなど、盛況のうちに幕を閉じました。

今後とも一次産業間で連携した取組の活発化や、新たなビジネスの創出など、地域の活性化に繋がる交流会を企画していきたいと考えています。



宮城県漁業士会中部支部

地区懇談会

令和八年三月十七日に、漁業士八名および青年部員二名が参加し、地区懇談会を開催しました。

懇談会では、石巻海上保安署から、海難事故防止に向けた取組等について説明を受け、参加者からは、日々の操業で疑問に感じている関係法令の適用基準など、実務に即した質問が出され、法令知識を深めるとともに海難事故防止への意識を高めることができました。



地区懇談会の様子

また、意見交換会では、参加者から日頃の活動状況や各浜の現状について報告があり、今後の漁業について意見交換が行われ、大変有意義な懇談会となりました。



南部支部

南部支部研修会

令和七年六月一三日、塩釜市内を会場として南部支部研修会を開催しました。当日は、会員一六名が参加し、講師として宮城県水産技術総合センターの石川研究員をお招きし、「宮城県沿岸の海洋環境の変動と水質環境及び水産生物への影響」と題して御講演いただきました。



石川研究員による講演

研修会では、近年の宮城県沖合海域における黒潮の動向や海洋環境の変化、それらに伴う水揚げ魚種の変化や水産生物への影響について説明がありました。参加者からは、近年急増したシロボヤの力キ養殖への影響等について質問が挙がりました。

昨今の三陸沖の海洋環境の変化とそれに伴う水産生物への影響はあまりにも大きく、対策は難しいことが分かった反面、常に海で何

が起きているかモニタリングを続け、変動の要因を検討していくことの重要性を改めて再認識することが出来ました。

塩釜水産物仲卸市場でのワークショップ

令和八年三月八日に、塩釜水産物仲卸市場にて魚食普及ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、漁業士が生産した旬の食材「ノリ・カキ・ワカメ」を用い、ノリ汁、蒸しカキ、ワカメしゃぶしゃぶのお振舞やノリ焼き体験、パネルを用いて各養殖種の生産工程の説明を行いました。

来場した方からは、「生ワカメを初めて見たが、茹でる前は茶色であることを知らなかった」、「焼きたてのノリはこんなに美味しいと知らなかった」などの声をいただきました。



大盛況な漁業士特製メニューお振る舞い



当日は、四人の漁業士がお振舞などを行ったほか、「南部地区漁協女性部連絡協議会」にもお声がけし、同協議会の会長も御参加いただき、一緒に取組を行いました。

今後も、青年部や女性部との連携も視野に入れながら、取組を行っていききたいと思います。



できたてアツアツの蒸しカキ

こども食堂への食材提供及び魚食普及活動

南部支部所属漁業士によるこども食堂での取組について御紹介いたします。ノリ養殖業を営む尾形一彦指導漁業士（JFみやぎ宮戸支所）は、地域食堂及びこども食堂に対し、味付けノリの提供を行いました。提供先からは、感謝の言葉が寄せられました。

同じくノリ養殖業を営む千葉周指導漁業士（JFみやぎ塩釜地区支所）は、こども食堂にて魚食普及活動を行いました。

当日は、生ノリ、乾ノリ及び焼きノリの実物を見せ、比べながら、子供たちにノリの生産工程を説明した後、ホットプレートを用いてノリ焼き体験を行いました。



ノリの説明をする千葉漁業士

子供たちは、乾ノリを自分で焼き、食べながら、乾ノリと焼きノリの食感・香り・味の違いや、色の変化を感じていました。

南部支部では、今後も漁業士による地域の子供たちへの魚食普及活動を継続し、水産業の魅力発信や、後継者育成・担い手確保対策に取り組んでいきたいと思っております。



こども食堂での提供メニュー「漁業士のノリを使った手巻き寿司」

宮城県漁業士会の参加行事

宮城県漁業士会では、令和七年度に以下の行事に参加協力しました。

◆宮城県漁業士会認定検討会 (五月三日)

宮城県が実施する漁業士を認定するための検討会。会長が検討委員として対応しました。

◆宮城県漁業協同組合青年部総会 (七月二十三日)

副会長が来賓として出席しました。

◆東北・北海道ブロック漁業士 研修会 (七月十一日～十二日)

副会長が代表で出席しました。研修会では、各漁業士会活動について情報交換したほか、全国デイスカッションテーマについて意見交換し、当ブロックからは「漁業士として果たす責任と得られる効果」というテーマを提案することになりました。

翌日の現地視察では、福島県水産開洋研究センターにて脂質含量簡易測定装置のデモンストレーションが行われました。この機器によって市場に水揚げされたアカムツの脂のりがデータ化されたことで、付加価値が高まり、結果的にアカムツの単価が上がったということでした。



機器について質問する小野副会長

◆2026農山漁村パートナーシップ 推進宮城県大会 (二月二十日)

副会長が来賓として出席しました。



来賓出席した水間副会長

トピックス

青年漁業士養成講座について

県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和七年九月十日・十七日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

本講座は漁業士として活動するために必要な知識を身につけるものです。今回の受講者は六名で、

最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会活動についてなどの講義を熱心に受講していました。受講者の皆様が今後漁業士に認定され、ご活躍することを期待しています。

○受講者

- 工藤 広樹さん (JFみやぎ志津川支所)
- 渡辺 雄也さん (JFみやぎ志津川支所)
- 三浦 大輝さん (JFみやぎ雄勝町雄勝湾支所)
- 櫻井 保さん (塩釜市漁協)
- 櫻井 万里奈さん (塩釜市漁協)
- 櫻井 統也さん (塩釜市漁協)



講義の様子

退任漁業士のお知らせ

令和七年度末までに指導漁業士認定期間が終了し、退任されました方は次のとおりです。

○令和七年度末任期満了

- 須田 えみさん (JFみやぎ石巻地区支所)
- 横江 昭さん (JFみやぎ雄勝町雄勝湾支所)
- 後藤 晃さん (JFみやぎ鳴瀬支所)
- 三浦 一郎さん (JFみやぎ矢本支所)
- 斎藤 幸一さん (JFみやぎ石巻湾支所)

これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。退任される皆様には、退任式にて感謝状と記念品が贈呈されることとなっています。

「みやぎ漁師カレッジ」が 開催されました。

県が漁業の担い手育成・新規就業者確保のため開催している「みやぎ漁師カレッジ」において、座学や漁業現場の講師として漁業士の皆様にご協力いただきました。

令和七年七月一日から令和八年二月二十日まで開催された長期研修では、新規就業者十一名、就業済みの若手漁業者三名の計十四名が参加し、県内養殖業や漁船漁業、ロープワーク等の座学や、各研修生が就業を見据えて選択した

研修先での専門研修を受講しました。
一級小型船舶操縦士などの資格も取得し、研修修了後、研修生は県内漁業の各現場に就業しています。
また、令和七年六月二十一日から六月二十二日、令和七年十月十一日から十二日の各二日間開催された短期研修では、宮城の漁業に関心のある計十七名が集まり、宮城の水産物の概要等の座学、カキ養殖やホヤ養殖漁業の現場作業などを体験しました。



カキ処理場の見学
(令和7年度第1回短期研修)

〇ご協力いただいた漁業士の皆様(順不同)

長期研修
渥美 政雄 指導漁業士
小野 真義 指導漁業士
三浦 恒志 指導漁業士
相澤 充 指導漁業士
後藤 伸弥 青年漁業士

短期研修
江刺 寿宏 会長
小野 具大 副会長
米倉 和久 指導漁業士
渥美 政雄 指導漁業士
阿部 誠二 青年漁業士
赤間 拓哉 青年漁業士



カレッジ受講生と漁業士ら

「みやぎ漁師カレッジ」は来年度も開催される予定です。新規就業者の雇用及び本県水産物のPRの機会になりますので、ご協力いただける漁業士の方は、事務局までご連絡ください。

みやぎ漁師カレッジ
新作動画公開中!



みやぎ漁師カレッジ 動画

「みやぎ水産の日」と

宮城県漁業士会

県では、毎月第三水曜日を「みやぎ水産の日」と定め、県漁協や販売店と連携して、県内水産物の魅力を発信する取組を行っています。

各支部で「みやぎ水産の日」にあわせた販売会を行っており、県産水産物をPRする機会になりますので、興味のある漁業士の方がいらっしゃいましたら、所属の支部事務局にご連絡ください。



宮城県漁業士会ロゴマークを

ご活用ください!

宮城県漁業士会では、漁業士認知度向上(P.R.)と漁業士が生産した商品の付加価値向上を目的として、ロゴマークを作成し、その活用を推進しています。

宮城県漁業士会のPRを目的とした取組や、商品パッケージへの使用、漁業士の商品販売促進等で広く活用いただけます!

詳しくは、所属支部事務局にご連絡ください!

◆使用例

- ・ 名刺
- ・ 封筒
- ・ ホームページ
- ・ 店舗内の壁面やPOPなど

◆商品パッケージへの使用事例



西條党漁業士のワカメ



菊地幹彦漁業士のノリ

※商品本体への使用の際は、簡単な届け出が必要になりますので、お気軽にご連絡ください!

公式ホームページ・SNSを開設しました!

宮城県漁業士の活動や漁業士の生産活動等について広く知ってらえるよう発信しています。掲載記事の取材のため、多くの漁業士のもとへ伺いたいと思いますので、皆様ご協力よろしくお願いします!

ホームページや、SNSはこちらから! 電子版の[海人]も読めます。



宮城県漁業士会 公式



ロゴマーク